



顧問 上村 竜士先生

1年 佐藤 ひかるさん

3年 竜口 直己君

1年 廣波 翔馬君

1年 伊藤 宏次朗君

土俵に立っているのは“ひとり”ではない

高校相撲の1つの魅力であるのが、団体戦です。

これはテレビでよく見る大相撲界にはありません。

3人制と5人制があり、一人ずつが相手チームの一人と対戦します。

仲間を背負っているので、勝負にかける想いがまた違ったものになります。

博多高等学校 相撲部



顧問 一ノ瀬 康平先生

生徒にも相撲をずっと続けてほしいので、基礎基本の練習を大事にしています。例えば、四股。これは相撲のとても大事な基本動作です。柔軟性とバランス感覚を養い、体の粘り強さを鍛えます。基礎練習は地味ですが、その先で力を発揮するために絶対必要です。1期生が団体優勝できたのも、目先の勝ちに走らない、先を見据えた練習が実からだと思っています。彼らは誠実に教えを守って、教え以上のことをやってくれました。本当に、心も体も立派になりました。私も現役で相撲を続けています。顧問として生徒と一緒に相撲を楽しんで、共に成長していきたいです。



3年 前部長 宮澤 翔生君

僕たちの学年は、創部1期生です。1年生のときから3人でやってきたので、部長として特別な意識はあまりなかったかもしれませんが、でも暗い雰囲気になったらきつくなってしまいうので、1番声を出すようにしていました。僕は大学でも相撲を続けるので、大学でも通用するよう、もっとレベルアップできるように、今のうちにしっかりと鍛えて体づくりをしています。



2年 現部長 平島 優作君

小学校1年生のときから相撲を続けています。相撲はただの体のぶつかり合いではなく、駆け引きがあるのが面白いんです。相手をよく見て押すところは押す、引くところは引く。そうやって崩し合いをするんです。いま部長をしていますが、態度で示して部員を引っ張っていきけるよう、自分の体づくりをしたり学校生活の中でも礼儀を大切にしたりしています。



3年 持田 典将君

相撲部1期生として、先輩もなく環境も整っていない中、ゼロからイチをつくるため必死にやってきました。2年生の最後、僕たちは大会で団体優勝を果たしました。3人がお互いを信じてやってきた結果が出た、“イチ”をつくることができた、すごく嬉しかったしほっとしました。そして同級生だけでなく先生、指導者、両親に恩返しができたと思いました。



2年 マネージャー 高瀬 美羽さん

主な仕事は、練習後に食べる「ちゃんこ」を作ること・洗濯・掃除です。「食」でみんなを支えられるよう、ご飯は美味しく、気持ちを込めて作っています。部員のみんな、部活中は普段と違う迫力があるなあと思って見えています。楽しく練習をして体調に気をつけて、試合でその成果が出せるように頑張っています。